

## 群馬県上野村における小型哺乳類生息調査

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

群馬県立自然史博物館では第 6 次自然史総合調査として 2011 年度より 3 年計画で群馬県上野村における自然史総合調査を実施した。その後、さらに 2014 年度より 3 年計画で調査地域を上野村及びその周辺に拡大して第 7 次自然史総合調査を実施している。ここでは第 6 次及び第 7 次自然史総合調査において実施されている上野村地域の小型哺乳類調査のこれまでの結果について予察的に報告する。

捕獲調査にはシャーマントラップを使用し、エサはオートミールを用いた。各調査では調査初日の午後に調査地点にトラップを設置し、翌日の午前中にトラップの確認・回収を実施した。各地点ではそれぞれ 20～40 のトラップを設置した。調査はいずれも 1 晩のみの調査である。捕獲されたネズミ類は種類、性別、体重及び外部形態を計測後、捕獲地点で放逐したが、捕獲された個体のうち死亡個体について標本化し、当館の収蔵資料とした。調査地域全体の生息状況の調査を目的としているため放獣個体の標識は行っていない。本調査では上野村地域における小型哺乳類の生息調査を目的としているため、村内の様々な地点での捕獲調査を実施している。

本調査ではこれまでに合計 29 回の捕獲調査を実施し、のべ 149 地点において合計 4583 のトラップを設置した。その結果、合計 382 個体のネズミ類及びモグラ類が捕獲された。捕獲された個体で最も多いのはアカネズミで 177 個体、捕獲個体の 46% を占める。次に多いのがヒメネズミで 129 個体（捕獲個体の 34%）である。ハタネズミは 62 個体であった。

アカネズミ・ヒメネズミでは、夏季（6 月～9 月）において顕著に捕獲数が多いことが示唆されたが、その一方で捕獲個体数自体は年ごとにばらつきがある。ネズミ類の個体群動態は年ごとの大きな変動があることが指摘されており、今回の調査結果でも同様の現象が確認された。一方ハタネズミ類に注目すると 2015 年以前では捕獲はほぼ冬季のみに集中していたが、2016 年では 1 月～8 月までのすべての調査において捕獲されるとともに捕獲個体数自体も増加しており、それまでとは異なる状況である。県内の他地域で実施した調査でもアカネズミ・ヒメネズミに比較してハタネズミ類の捕獲個体数の変動が顕著であり、同様の事象が観察されているものと考えられる。

2014 年度よりネズミ類の捕獲状況の季節変動について調査をするため調査地域内の 3 地点を選定し、継続的に捕獲調査を実施した。調査では初日の夕方にトラップを設置し、翌日の朝（9 時前後）トラップの確認を実施し、捕獲個体の回収を行った後に再び午後（3 時前後）にトラップの確認を実施した。

その結果、基本的には 1 回目の確認時の捕獲個体数が顕著に多いが、2014 年度、2015 年度ともに 1 月の調査では 1 回目の確認時には捕獲されず、2 回目の確認時のみで捕獲された地点があり、季節変動を示しているのかもしれない。ただし議論を行うためには、さらなる調査によるデータの蓄積が必要である。

キーワード：群馬県上野村、ネズミ類、モグラ類、生息分布